

10月16日「湖北の高校を守るつどい」

時代にふさわしい新しい合流が

多彩な顔ぶれ120人が「臨湖」に集う

10月16日、長浜勤労福祉センター「臨湖」で「湖北の高校を守るつどい」が開かれました。そこに、湖北を大事にする120人が党派や意見の違いを超えて合流しました。長浜と米原の議員(13人)、地域住民(53人)、PTA・保護者(7人)、高教組(29人)、全教(10人)などです。

市会議員や町会議員があいさつ

冒頭、長浜市の押谷議員があいさつ。「高教組からの請願は6月議会で『主旨了承』に止まった。しかし、9月24日には、総務文教委員会が提案して、議長・知事・教育長に上げる意見書が全会一致で採択された。これらを受けて、翌25日

には『湖北の高校を守る会』が結成された。高校を守り未来ある高校に整えていくことが私たちの仕事」と市会議員としての決意を述べました。来賓として2人が挨拶。知事与党の「対話の会」の角川誠県議は「知事は当初、非常に固い姿勢だったが、地域の意見を聴いてから計画を決める方向に変わってきた」と報告。民主党の西川勝彦県議も「県民の納得を得ていないので、現時点では、今回の再編計画には反対だ」と述べました。



7～8年 湖北でも子どもは減らない

続いて、高教組の杉原委員長が「統廃合で湖北はどうなる」と題して講演。「極めてタイムリーに、党派を超えて一致点で合流する新しい運動が始まった。全県の励ましになる」と切り出し、焦点になっている問題を詳しく説明しました。

県は特に湖北の減り方が大きいと言うが、7～8年は湖北も減らない。少なくとも、今は統廃合の必要はない。高校生1人に使うお金は、全国で45位で大

分県の半分以下だ。1校なくすことで浮くお金は5000万程度。10校で5億円だ。嘉田知事は、昨年も今年も、大儲けをしている大企業に奨励金だとして18億円を渡している。それを5億円減らせれば統廃合しなくてすむ。

県は、大規模なら切磋琢磨して活力が増すと言うが、大規模になれば関わりが薄くなる。地域の高校をつぶすなと言うと、県は、地域のエゴだと言うがエゴでも何でもない。地域の繋がりを大事にすることは、人間と社会を大事にすることだ。これは、教育の根本だ。

みなさんの声が事態を動かしてきた。県は「拙速にはしない」と再度県民の意見を聴く会を開くことを決めた。来年4月には一斉地方選挙があり統廃合が大きな争点になるのは必至。県会議員や市町会議員は、高校統廃合に賛成か反対かの態度を明確にすることが求められ、住民はそれをじっと見ている。

長浜北中学の滝上さんは「不況で県立高校の受験生が増えている。統廃合のしわ寄せは低所得者や子どもにくる」と報告。会場からは「4～5学級が不適正というのなら、これまで不適正だったのか」との意見が相次ぎました。

カンパ65,570円

集い終了後、カンパ袋を開けると65,570円ができました。「すごいなー」と感嘆の声。この集いが、如何にみんなの心にフィットしていたか、その証でした。みんなすがすがしい顔でした。



みんなこぞって
県立高校をつぶすな
11・3県民のつどいへ

パネリスト保守革新を超えて多彩です。

村西俊雄さん(愛荘町の町長)

押谷憲雄さん(長浜市の市会議員)

児玉さよ子さん(山東町の母親)

大月由美子さん(愛知中学の教諭)

フロアーとパネラーで自由にやりとりします。

高校統廃合はストップせよ

速報 第27号 2010/10/22 発行：滋賀高教組

(増し刷りして全教職員に配布し、また掲示板に貼るなどして下さい)